

令和元年度 京都市立向島秀蓮小中学校 教育指導計画

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

一人一人の人間性を磨き、未来を拓く力の育成～果敢に挑戦！知らない自分に会いに行け！～

目指す子ども像

- ・ひたむきに学び続ける姿
- ・たくましく誠実な姿
- ・豊かに生き合う姿

目指す教職員像

- ・目指す子ども像の実現に向けて切磋琢磨できる教職員集団
- ・「情熱」「使命感」「責任感」と子どもへの深い愛情を持って教育実践できる教職員集団
- ・互いを思いやれる同僚性の高い「チーム秀蓮」としての教職員集団

目指す学校像

- ・「なりたい自分」と「確かな学び」をつなぐ小中学校
- ・豊かな心を育み、一人一人が大切にされた温かな小中学校
- ・家庭、地域とつながり、ともに育つ小中学校

2 学校経営方針

目指す学校、教職員像の体現化を図ることを最も重要な要素として、進取の気風を確立させ、自ら課題意識を持ち、創意を持って解決に努め、児童生徒も教職員もともに成長することを目指す。

＜学校運営＞

- ・義務教育学校という新たな学校における目標等を達成していくために、研修や教職員の連携、管理職とのコミュニケーションを図りながら、「1年から9年で一つの学校である」ことの教職員の意識改革を図り、「チーム秀蓮」として組織的に対応していく。
- ・全教職員が学校運営計画に参画し、魅力ある学校づくりをすすめる。
- ・ミドルリーダーを中心とした義務教育学校としての創造的、組織的学校運営を図る。
- ・アンケートや学校評価等を軸としたPDCAサイクルを確立させ、教育課題を明確にしながら改善を図っていく。
- ・校務の効率化、業務改善の視点をもって学校運営を行い、働き方改革を推進する。
- ・小中学校運営協議会を軸に保護者・地域との連携を密にし、協働しながら社会に開かれた学校教育を推進する。
- ・学校だよりやHP、学校公開などを積極的に活用し、教育活動を地域、保護者に発信する。

＜豊かな心＞

- ・「人間性を磨く」視点を実現させるために、人権教育や道徳教育を推進し、「いのち」の大切さや人権尊重の理念を正しく理解させ、「子どもの命を守りきる」教育活動を全教職員で進める。また、道徳教育を要とし、「考え方議論する道徳」の実践を通して、子どもたちの相互理解を深め、心豊かな人間を育成する。

＜学習指導＞

- ・児童生徒が豊かな未来を築いていくためには、確かな学びを充実させることが大切であり、そのためにも、授業規律の徹底を図り、すべての児童生徒に基礎・基本をしっかりと身に付

けさせ、自ら学ぶ意欲を高めるなどの学びの基礎を徹底して固めていく。また、「自ら学ぶ意欲」を高めていくために課題解決学習を軸に「授業が分かれれば、勉強は楽しい」をモットーに授業改善や指導力の向上に努め、自学自習の体得を目指す。これらの実現のために、全教職員が同じ目標に向かい、切磋琢磨し徹底して取り組むことを学校全体で共通認識していく。

＜児童生徒指導＞

- ・児童生徒理解を基本とし、正しい言動がとれる児童生徒の育成のため、一人ひとりの心に寄り添った丁寧な指導・支援を心がける。(児童生徒を理解しようとする教員の意欲的な姿勢が児童生徒・保護者の心を動かし、信頼関係の基礎となる。)
- ・9年間を通した連続的な(つながりのある)生徒指導を軸に、挨拶に始まる礼儀作法や言葉づかい等のしつけ、時間管理や生活習慣の指導、人間としての生き方やより良い学校生活を過ごす上で必要なルールや行動様式の在り方をあらゆる場面で粘り強く指導していくことが不可欠であり、生徒の視点に立ちながら学年を越えて全教職員が一体となって指導していく。
- ・生徒会決議の「3い追放」を引き継ぎ、「いじめのない安心・安全な学校」を目指した予防的な指導を推進していく。
- ・学校教育活動を通して、自己肯定感・有用感、他者への思いやりを持ち、自ら進んで考え方判断し、責任を持って誠実に実行できる力を高める。
- ・児童生徒の社会性を育成し、自己実現が図れるよう、系統的・計画的な指導、支援を行う。(学校生活の基礎・基本の徹底)
- ・生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感の人間関係)を活かした学級経営・授業づくりを推進し、自己教育力を高める。

＜健やかな体＞

- ・本校で目指す「人間力」のすべての基盤は健やかな体と心の調和であり、日常的に生活習慣や体力の向上を目指した取組の充実を図る。

＜特別支援教育＞

- ・総合育成支援教育の視点から全教職員の理解と認識を深め、学習や生活に困りのある児童・生徒の発達を育んでいくよう特性に応じた多様な学習へのアクセスを整えながら教育実践を進める。
- ・育成学級における児童生徒一人ひとりの個性・資質・能力を最大限に引き出し、学習や生活習慣の定着を図るとともに、自立した生活ができるように指導する。また、交流学級など連携を深め、生徒間の連帯感を高め、共生社会に向け、共に学び合う意識を育成する。

3 学校教育の計画

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

9年間の一貫したつながりのある教育課程の編成により、学び方を連続して定着させ、学習意欲の向上につなげていく。また、日常の授業を基盤に、1年から9年を通して「課題解決型」「学び合い」の授業を重視し、学ぶ意欲や主体的に課題解決に向かう姿勢を確立させ、「コミュニケーション力」「発信する力」「考える力」の育成を図る。

具体的な取組

- 「自ら考え表現する力」の育成を図るため、クリティカルシンキングをアプローチとして取り入れた授業づくりの研究を進める。
 - ・「なぜ?」「本当にそうなのか?」など問い合わせること（メタ認知）を教科領域を超えて習慣化させる。
 - ・9年間を通して、常に根拠・理由を持って答え続けることが習慣化されることにより、「学ぶ意欲」を高め、「コミュニケーション力」「発信する力」「考える力」の育成につなげる。
 - ・多様な視点から物事を考え、根拠をもとに考えを深めさせる「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりにより、「自ら考え表現する力」を身に付ける。
- 発達段階に応じた「学びのプロセス」（秀蓮学びのメソッド）を確立させ、家庭学習とのサイクル化を図る。
 - ・全学年・全教師で発達段階に応じた問題解決的な学習スタイルを実践し、家庭学習とのサイクル化を図り、自ら学ぶ力の定着を図る。
 - ・全学年において、「書くこと」（振返りの活用）を習慣化し、「考える力」「伝える力」の育成につなげていく。
- ALの視点から、タブレット等ICT機器を活用した教育の充実を図る。
 - ・タブレット等における思考ツールの活用など、思考プロセスの「見える化」により、考えを「深め」「広げ」「まとめる」など思考力の育成を図る。また、子どもが主体的に学ぶことができるアクティブラーニングの視点から授業の充実を図る。
 - ・プログラミング教育の充実を図り、論理的思考力の育成を図る。
- 「英語力向上プログラム」を作成し、英語によるコミュニケーション力の育成を図る。
 - ・外国の文化・歴史等の理解を深め、英語によるコミュニケーション力を身につけ、グローバル化に対応できる資質・能力を培う英語教育の充実を図る。
 - ・「英語力向上プログラム」（独自のものを作成）を活用し、自分の考えを英語で表現すること、また他の者の考えを理解することができるようとするなど、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わい、英会話力を育成する。
 - ・前期課程においてイングリッシュデイを充実させるなど英語活用意識を高める取組を推進し、前期課程での英語の学びをつなげるために、後期課程における英語科以外の教員が日常的に英語を活用するなど、英語教育環境を整える。
 - ・英語検定2級3級合格者50%以上を指標とする。
- 学習意欲を高め、自己教育力を身に付けるチャレンジタイム（モジュール）の充実を図る。
 - ・毎日の短時間の学習を積み上げることにより、基礎力を身に付け、集中力を持って授業に臨める姿勢を習慣化させる。
 - ・ベーシックステージにおいて、「トークトレーニング」を取り入れ、「話す力」「聞く力」「話し合う力」の基礎を身に付ける。
- 全学年において総括考査に取り組み、学びに向かう姿勢を確立させる。
 - ・学びに向かう姿勢を確立していくために、1年生より学校全体で総括考査に取り組む。
 - ・家庭教育を充実させるため、家庭とのつながりを重視し取組を進める。

●自ら学ぶ家庭学習習慣の定着に向け、家庭とのつながりを重視する。

- ・授業と家庭学習のつながりを大切にし、学んだことの振り返りやまとめを行うことで、わかる喜びや学ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・家庭学習の手引（京都市及び学校独自の冊子）を活用し、学年に応じた効果的な学習方法を身に付け、自主的に学習に取り組ませる。
- ・家庭とのつながり・協力を重視し、子どもの家庭学習習慣の定着に向け、サポートする。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

1年生から9年生の発達段階を踏まえながら、連続的に「一人一人の子どもを大切にした指導・支援」の充実を図り、「自己存在感」や「自尊感情」を高め、「たくましい心」「優しい心」「自律の心」を身に付け、豊かな人間性を育成する。

具体的な取組

●学びに向かえる温かな学級集団づくりを重点化し、一人ひとりの未来を大切にする。

- ・生徒指導の三機能「自己決定」「共感的人間関係」「自己存在感」を意識した学級づくりを通して、温かな空気感の教室や温かな人間関係が構築できる学級集団づくりを重点にする。
- ・ピアサポートプログラムやグループエンカウンターを取り入れ、人間関係づくり・心の育成を図り、学級満足度が高く、居場所のある学級づくりを推進する。

（グループエンカウンター=本音を表現し合い、それを互いに認め合う体験）

●自尊感情を育むピアサポートを充実させ、未来に活きる人間性を鍛える。

- ・9年生までの異年齢集団による縦割り活動や他者を支える活動を通して、上学年の生徒はリーダーシップを發揮し、下学年の児童のサポートをすることで人の役に立っていることを実感することにより「自己有用感」を高め、自分を大切に思える「自尊感情」を育む。
- ・下学年の児童には「あこがれ感」から自身の将来を上学年に重ねて行動できるようになる、上学年には「模範意識」が育つなど、たくましく誠実な心の育成につなげ、学年を越えて認め合うなど、子どもたちの絆を深める。

●「向島秀蓮小中学校 十の宣言」を軸とした規範意識の醸成を図る。

- ・9年間のつながりの中で、児童生徒会の連携による活動や学級活動の取組を通して、規範意識の「意識化→行動化→習慣化」を図り、当たり前の行動が自然と実践できる力を身に付ける。
- ・9年間連続した規範意識の醸成により、「たくましい心」を培い、「優しい心」を身につけ、「自律の心」を学び、社会に通用する人間性を磨き育てる。

●人間性を育て磨く「こころ科」を新設する。

- ・9年間の茶道体験を通して、集団における秩序や調和、また礼儀を重んじる「和の心」を学び、品格・礼節などの人間性の基礎を育成する。
- ・対話を通して、共に考える場を創ることを大切にした実践により、未来を生きる力を育む。
- ・対話を通して、1つのテーマについて考えたことや感じたことを述べ合い、聞き合い、考えを深め、違いを活かし合い、補い合いながら、自己の「生き方」について主体的に考え未来を生きる」について深く考えることができる力を身に付けさせる。
- ・対話を通して他者への思いやりの心を持って多様な人と協働できる力を身につけ自己肯定感を高める。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

人間力のすべての基盤は健やかな体であり、日常的に生活習慣や体力の向上を目指した取組の充実を図り、たくましく生きるための健康や体力の育成を図り、人間力の土台を鍛える。

具体的な取組

- 「秀蓮 PRIDE プロジェクト」の推進を図る。
 - ・「食事」「睡眠」「運動」の3本柱を中心とした健やかな体を育成するプロジェクトの推進を目指す。
→食習慣の確立を目指した取組の推進していく。
 - ・朝食欠食率・給食の食べ残し0%，食事が楽しいと感じる子ども100%を目指す。
→適正な睡眠について学び、実践する
 - ・自分に合った睡眠時間を知り、徹底して実施していく。
→基礎体力の向上を目指した9年間の系統的な取組の充実を図る。
- ・京都教育大との連携を通して、体力の分析を行い、課題を克服するための「秀蓮体操」または、「体力向上プログラム」の共同開発を通して体力の向上を図る。
- ・体を動かすことを通した仲間づくりを推進し、運動の楽しさを味わい、体力向上に向けた主体性を培う。特に、ベーシックステージにおける中間休みを活用したプログラムの作成を行う。
- 生活習慣の確立を目指し、家庭との連携を重視する。
 - ・早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣の定着を目指した取組、連携を充実させる。
 - ・食育学習を通して望ましい食習慣の定着を図り、健康な体と豊かな心を育成する。

4 「小中一貫教育」における9年間の教育目標と目指す子ども像

9年間の教育目標（中学校ブロックの小・中学校で共有すること）

一人一人の人間性を磨き、未来を拓く力の育成 ～果敢に挑戦！知らない自分に会いに行け！～

校訓 「自立」「清心」「貢献」

- 自立：
 - ・主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる人間の育成
 - ・困難を乗り越えるたくましい心を持ち、他者と助け合いながら協働できる人間の育成
- 清心：
 - ・美しい蓮の花のように純粋で清らかな心を育み、誠実・謙虚で思いやりのある人間の育成
- 貢献：
 - ・地域や社会に向き合い関わり合い、自己実現を目指すとともに、社会のため人のために行動できる人間の育成
 - ・「人とつながり、ともに学び、支え合う力」を高め、より良い自分、より良い社会の実現のため自ら考えて行動することができる人間の育成

目指す子ども像（中学校ブロックの小・中学校で共有すること）

卒業までに 実現させたい姿	ひたむきに 学び続ける姿	たくましく 誠実な姿	豊かに 生き合う姿
ビジョンステージ	ひたむきに学び続ける姿	たくましく誠実な姿	豊かに生き合う姿
チームステージ	協力し学び合う姿	挑戦し高め合う姿	豊かにかかわり合う姿
ベーシックステージ	いきいき学ぶ姿	やさしくすなおな姿	なかよくつながる姿

自校の具体的な取組

秀蓮 PRIDE プロジェクト

・向島秀蓮の児童生徒であることと、その学び舎における9年間のひたむきな学びの中から得られる自信と誇りを育み、未来を拓く力の育成を図る教育構想の総称

「未来を拓く力」を育成するために重点化した6つの資質・能力は、自立した社会人としての必要な基礎

力もあり、どのように時代が変化しようとも豊かに生き抜いていくために必要な力と考える。

また、9年間を見通した「学びのつながり」「育ちのつながり」「人のつながり」の3つのつながりを核としたカリキュラムで学び、「学びを習得していくプロセス」や「学校教育全般の中においてひたむきに取り組む過程」の中で、結果として身に付くものとしてとらえる。

秀蓮 PRIDE プロジェクトを支える教育システム

①9年間のつながりを「4-3-2 制」の3つのステージで進める指導体制

- ・9年間を「4-3-2 制」の3ステージとし、それぞれを「ベーシックステージ」「チームステージ」「ビジョンステージ」とする。

②5年生より、50分授業の実施による小中教員の相互乗り入れ体制（一部教科担任制）

③「タテ持ち」導入により、授業の質の向上を図る

- ・高い同僚性や協働した授業づくりを行うことにより、スピード感ある授業改善を進める。
- ・授業の質の向上とともに、教師の専門性と指導力の質の向上を図る。

④「知・徳・体」のバランスを重視し、すべての子どもたちに基礎基本を身につけさせる

- ・「読み・書き・計算」の繰返しによる徹底した基礎基本の習得や学びの姿勢の確立を図る
- ・「十の宣言」（生徒十訓）を軸に生活習慣、学習習慣の定着を図り、豊かな心を育む。
- ・心身の健康がすべての土台であり、そのための体力の向上を図る。
- ・小6までの常用漢字の読みについて、4年生までに学習し、語彙力の向上を図る。
- ・チャレッジタイム（モジュール）を活用し、計画・継続的に基礎基本の力をスパイラル化する。

⑤育成学級や通級指導教室等の柔軟な運営による個々の児童生徒のニーズに沿った指導

⑥キャリアパスポートを活用したキャリアマネジメントの推進